

【和鉄の道・Iron Road】 山科 西野山 walk 2016.6.3.

●坂上田村麻呂墓を訪ねる ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷



旧安祥寺川岸より眺める稲荷山の山並み 稲荷山手前に西野山があり、ほぼ高さが同じなので重なっている

1. 今の時代に通じる 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論 !!

NHK BS 英雄たちの選択 「衝突! その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26. より

2. 山科 西野山 walk 主要訪問先 概要案内

3. 山科 西野山 walk

●坂上田村麻呂墓を訪ねる ●西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社 ●稲荷伝承の折上稲荷

●勤修寺 回遊式庭園の花菖蒲と睡蓮見学

4. 坂上田村麻呂創建の京都東山 清水寺に アテルイ・モシの碑を訪ねる

NHKBS 英雄の選択を見ていて、坂上田村麻呂・アテルイについての討論を聞いて、無性に懐かしくなって 山科西野山の坂上田村麻呂の墓を訪ね、帰りに清水寺のアテルイ・モシの碑にも訪ねました。

坂上田村麻呂が葬られたのは平安京と接する東山から稲荷山へ南北に延びる山並みを東に越えた山科盆地 山科側からいう西野山山麓に都に向かって 甲冑・剣や弓矢を具した立ち姿で葬られたと聞く。

山科は都に隣接して、北に比叡に連なる大文字山・如意ヶ岳・長等山の山並み 西側には東山から稲荷山 東側には逢坂山・音羽山から醍醐の山々に囲まれた盆地で、唯一開けた南は宇治から大和・伊勢・大阪に通じ、東西には東海道を都と近江を結ぶなど諸国を結ぶ交通の要衝であり、天地天皇陵をはじめとする王城の地でもある。特に西野山周辺は後に藤原氏となり隆盛を極めた中臣氏の本拠地でもある。 坂上田村麻呂がこの山科西野山に葬られたのもこんな当時の状況が絡んでいるのかもしれない。

また、山科は和鉄にとっても、盆地の北部大文字山・比叡と続く山並みには鉄鉱石があり、北側山麓には古代のたたら跡など如意ヶ岳南製鉄遺跡群が点在する製鉄地帯である。何度も出かけたことがあるのですが、盆地中央部から南へは通過するばかりで、よく知らぬ場所。西野山山麓を歩けば新しい出会いもあると興味津々で出かけました。

この walk のスタートに降り立った京都地下鉄柳辻駅の通路にあった紹介パネルで知った名刀「小狐丸」の伝承が残る山科花山稲荷 そして、稲荷大神 降臨伝承残る折上神社にも訪ねました。

もちろん 帰りには 久しぶりに坂上田村麻呂創建の清水寺のアテルイ・モシの顕彰碑にも出会ってこようと。



1. 今の時代に通じる 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論 !!

NHK BS 英雄たちの選択 「衝突! その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26. より

出演 : 磯田道史、赤坂憲雄、里中満智子、宮崎哲弥、鈴木拓也



坂上田村麻呂



古代の城柵「志波城」を復元した歴史公園



©盛岡市教育委員会

時は平安遷都を行った桓武天皇の時代。遷都と並ぶ国家プロジェクトが東北の蝦夷の制圧だった。大きな期待を背負い戦った坂上田村麻呂は、蝦夷のリーダー・アテルイを降伏させることに成功する。しかし田村麻呂はアテルイから助命を要請される。

朝廷の大反発が予想されるなか命を救う行動にできるか、それとも処刑やむなしと突き放すのか?

国家の方針で蝦夷と衝突し、そして蝦夷の実像を知っていった田村麻呂の苦悩に迫る。

インターネット NHK オンデマンド PR コピーより

アテルイは東北では英雄であるが、他では「鬼」・「悪路王」・「逆賊のリーダー」であり、坂上田村麻呂は逆賊を制圧した英雄である。

敵のリーダーアテルイとモシの度量と人柄を評価していた田村麻呂は まだ帰順せぬ蝦夷たちへの説得工作も視野にあったと推察されるが、助命を嘆願するも、彼らの謀反を恐れる貴族たちの反対もあり、2人は処刑された。この場面で、坂上田村麻呂の選択を支持するのか、それとも反対するのか?

4人のコメンテーターがどちらの選択をするのか? コメンテーターの意見・討論で番組が進む。

「多分 東京や都市圏で仕事をする2人は処刑を選択し、地方で仕事する2人は助命を選択するだろう」と

家内に話をしていたのですが、ドンピシャ。興味深々でつついテレビを見ていました。

当事者意識を捨て、一般常識的には 平和な暮らしが続いている蝦夷の人たちにとっては、突如 仰天の未知なる新しい社会秩序への選択を迫られたわけである。怒るのもあたりまえであろう。

でも勝手な都合からいうと 喉から手が出るほど新秩序に組み込みたい。「小を殺して大をとる」と。

この構図は沖縄問題・東京と地方・アフガニスタン&中東紛争 そして もっと直近では東京都知事問題にあまりにも極似していることに驚く。「右か左」「2/1」の選択は ややもすると帰属意識のぶつかり合い。必ずしも真ならず。

相手の暮らしを考えず、自分の暮らす社会の常識だけを判断根拠とする今の社会は本当に正しいのだろうか。

最後に東北学を提唱推進されてきた赤坂憲雄氏は

「坂上田村麻呂・アテルイは 二人して次の時代を切り開いた英雄であることには違いない。

これ以後 中央政権は秋田城・志波城をつくり、さらに北進してゆくが、その後の政策として、

武力での制圧を捨て、同化政策を採っていったことにも、大きな影響を与えたに違いない。

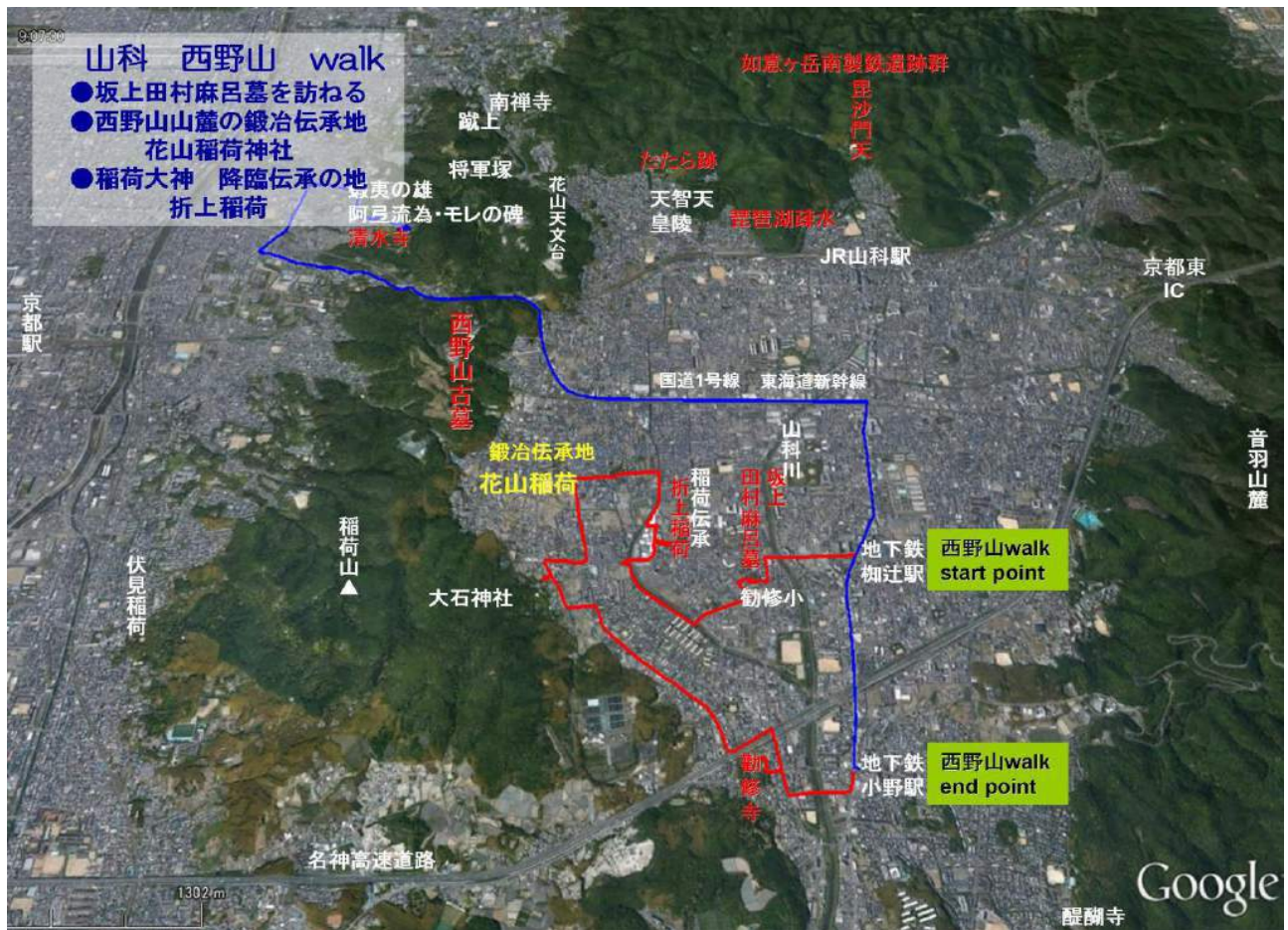
現代社会も彼らに学ぶことがいくつもある 」

と結ばれたのが、強く心に残る。

久しぶりに聞く「アテルイ・坂上田村麻呂」の話でした。

また、番組の中で、坂上田村麻呂が山科西野山山麓に葬られ、墓の場所として山科西野山古墓と推定されることが紹介された。地図を広げるとか坂上田村麻呂の墓が記載され、西野山は稲荷山東山腹のピークと知れ、よく知らない山科盆地の中央部や南部の西野山の山裾に興味津々。晴天の6月3日 清水寺のアテルイ・モシの碑 そして山科の坂上田村麻呂の墓にも出会いたくて、京都山科ウオークに出かけました。

2. 山科 西野山 walk 主要訪問先案内



2.1. 蝦夷の雄「阿弓流為」と征夷大將軍「坂上田村麻呂」

蝦夷の雄「阿弖流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂

和鉄の道・Iron Road <http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf> Page3 より

8世紀末頃まで、東北北上川流域を日高見国といい、大和朝廷の勢力圏外にあり、独自の生活と文化を形成していた。当時 大和朝廷は服属しない東北の民を蝦夷と呼び、蔑視してその計略のため数次にわたり、巨万の征夷軍を動員した。胆沢(岩手県水沢市地方)の族長「アテルイ」は近隣の部族を連合して10 数年にわたりこの侵略を頑強に阻止した。中でも789 年の栗伏の戦いでは勇猛果敢に奮闘して征夷軍に壊滅的な打撃を与え、蝦夷の英雄と称された。征夷大將軍となって東北に赴いた坂上田村麻呂は和戦量戦略を用いつつ、801 年 数万の将兵を動員してアテルイを打ち破り、ここに蝦夷攻撃は終り東北経営の拠点として胆沢城が築かれた。

「アテルイ」は十数年に及ぶ激戦に疲弊した郷を憂慮し、盟友「モレ」と同胞500 余名と共に降伏、田村麻呂に従って平安京に上った。田村麻呂は蝦夷の両雄の武勇と器量を惜しみ、東北経営に登用すべく朝廷に助命嘆願したが、公家たちに反対され、「アテルイ」「モレ」の両雄は802 年に河内の国で処刑された。

田村麻呂は深く帰依し、造営につくしたゆかりの「清水寺」でこの二人や敵味方の将兵の霊にその誠を呈して祈念を重ねたという。また、清水寺の後には京都東山連邦が連なり、その中央部のなだらかな山の上に「將軍塚」がある。

將軍塚からは京都全体が一望でき、桓武天皇が平安京造営を決断した場所といわれる。

そして、長く都を護る祈りを込めて土の武将像・坂上田村麻呂を作り、その甲冑を着せ、鉄の弓矢・太刀を持たせてここに埋めたといわれ「將軍塚」の名がついた。山の中央部にその古い円形の將軍塚があり、また頂上部の大日堂にはこの山から出土した平安初期の大日如来石像が祭られている。

なお、坂上田村麻呂の墓は京都市山科区にある坂上田村麻呂公園内にある西野山古墓が墓所と推定されている。

平安後期編纂の「清水寺縁起」に墓の位置を「山城国宇治郡七条昨田西里栗栖村の水田、畑、山を与える」という文言があり、この場所は今の山科区西野山岩ヶ谷町にあたり、西野山古墓の場所と一致するという。

西野山古墳は清水寺から南東約2キロの山科盆地西部にあり、8世紀後期から9世紀前期と見られ、田村麻呂の時代と一致する。大正8年に墓穴が見つかり、内部から、武人の墓にふさわしい純金の装飾を施した大刀や金銀の鏡、鉄の鎌などの副葬品が出土し、京都大総合博物館に所蔵されている。

一番最初にアテルイの名が出てくる『続日本書紀』では「賊帥夷垂弓流為 賊の大將 蝦夷のアテルイ」となっているのが後の編纂になるや『類聚国史』や『日本紀略』では「夷大墓公阿弓流為」と「公」という姓を与えられ、蝦夷の統率者として遇されており、その人物像には多くのなぞが残されていて、かつ魅力的な人物である。

一般歴史では「悪路王」と呼ばれ、田村麻呂の影で悪者とされてきた「アテルイ」であるが、東北では自分たちのオリジンとしての連帯の中「坂上田村麻呂を信じ、更なる騒乱による犠牲と荒廃をさせて自ら投降し、平和共存を願うアテルイ」と広くを愛してきた。

そして、平成6年にアテルイの復権に賭けた人たちの熱い運動で、田村麻呂ゆかりの京都清水寺の境内に「アテルイ・モレ」の顕彰碑が建てられた。

■ 参考 「和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪【Ⅳ】」 6.蝦夷の鉄 東北 和鉄の道

<http://mutsu-nakanishi.web.infoseek.co.jp/iron/4iron06.pdf>

■ 参考「蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂」

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf>



蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」への東北の人たちの強い連帯感

古代東北は資源王国。この東北の資源をねらって大和朝廷の蝦夷征伐が始まった。

蝦夷たちが手にした蕨手刀は弧状にそり、切る刀への日本刀のルーツ。戦いに敗れた蝦夷の技術集団は俘囚となって、日本各地に散らばって、たたら製鉄・刀鍛冶の技術を日本全国に広めた。出羽鍛冶・舞草鍛冶などの名が広く日本各地に残る。

「アテルイ」の実像を示す資料はほとんど残されていないが、アテルイ復讐の運動が今も広がっている

東北に通って「和鑑」について歩いているうちに「日高見の鬼」と呼ばれる蝦夷の族長「アテルイ」に東北の人たちが親しみを込め、熱っぽく語るその人物像ならびに「アテルイ」への強い連帯にビツクリ。

アテルイの生涯と蝦夷の戦いを熱っぽく描いた盛岡在住の高橋克彦氏の小説「火怨」があり、

東北人の思いを込めたアニメ映画「アテルイ」の原案でもあり、

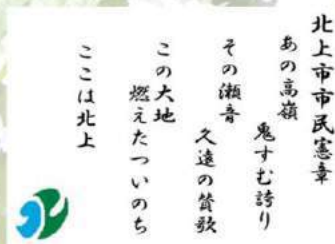
東北人で語られてきた「蝦夷観」「田村麻呂と蝦夷との交流」ほか当時の東北の事情が良く描かれている。



「アテルイは親・兄弟を愛し、美しい自然を愛すために生きた。
21世紀の人間がどう生きるかという大切なメッセージがある」
岩手県民総参加製作の長編アニメ映画「アテルイ」のメッセージより

岩手県北上市の市民憲章より

「あの高嶺 鬼住む誇り その瀬音 久遠の讃歌
この台地 燃えたついのち ここは北上」



清水寺にあるアテルイ・モレの顕彰碑



坂上田村麻呂の墓 西野山古墓 & 勸修小隣接 坂上田村麻呂公園内の

大正8年(1919年)に地元住民が竹林に土入れ作業をしていたところ、偶然に上部と周囲が木炭で覆われた木棺墓を発見、京都大学により発掘調査が行われ、金銀平脱双鳳文鏡、金装大刀、鉄鍬などの副葬品が発見された。

周辺が中臣氏の根拠地であることから、被葬者はその一族とされていたが、昭和48年(1973年)に地元の歴史考古学研究家である鳥居治夫は、条里制の復元研究結果にもとづき同墓が坂上田村麻呂(758年～811年)の墓である可能性を指摘した。

平成19年(2007年)、京都大学大学院文学研究科の吉川真司教授が清水寺縁起の弘仁2年(811年)10月17日付の太政官符表題の記述と当時の地図(条里図)を基にした山城国宇治郡山科郷古図(東京大学蔵)とを照合することで坂上田村麻呂墓説を裏付けた。

銀平脱双鳳文鏡1面、金装大刀1振、鉄鍬、鉄刀子、鉄釘、鉄板2枚、用途不明鉄製品、硯1点、水滴1点、石帯破片、漆箱、桐箱。これら副葬品は第1発見者から京都大学に寄贈され、昭和28年(1953年)に山科西野山古墓出土品として一括して国宝に指定



なお 平安遷都1100年を記念して明治28年(1895)

に整備された「坂上田村麻呂西野山古墓出土金装大刀と鏡の墓」が、古墓の南東1.5kmにある。

現在、マウンド状の土盛りが造られていて京都市が公園として管理している。

しかし、考古学調査が行われたことはなく、マウンドは田村麻呂の時代より古い古墳時代の墳墓の可能性が指摘されている。また、西野山古墓も竹やぶで覆われ、正確な位置がよくわからぬという。



手前の竹やぶが西野山古墓(×印)、上方の○印が清水寺



西野山古墓の正しい位置が発掘後、時を経て不明となりましたが、現在は発掘調査が行われた場所近くに、石碑が建てられているという。
この西野山古墓は、道幅が狭い割に交通量が多い滑石街道のまるでサーキットのようなヘアピンカーブに面して位置し、とても歩いて行ける場所でないという。



坂上田村麻呂の墓とみられる西野山古墓



坂上田村麻呂公園内
地元で伝承されてきた坂上田村麻呂の墓

● 坂上田村麻呂の墓とされる山科 西野山 西野山古墳の位置

府道118号線 滑石越の古道沿いに記されていました

今回 出かけるときには 西野山古墳の位置がよくわからず、今回探し当てることができませんでしたが、インターネット等調べて、高速道路8号線山科入り口のところから西野山・稲荷山を越えて京都今熊野に出る「滑石越の古道」を少し登ったところにその位置が記されていたので、書き記しておきます。

山科側から滑石越の山道に入って狭い急な坂道を上り、アピンカーブを曲がるところの竹やぶに西野山古墳が眠る。現在は藪に包まれていてよくわからぬという。



2.2. 花山稲荷神社の鍛冶伝承 名刀子狐丸 稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説

山科 花山稲荷神社 「稲荷塚」稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説
 謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

京都市地下鉄東西線堀江駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
 能「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている

三条小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地
達光宮が祭られている「稲荷塚」
 本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯籠の基部が残る。また、この辺りは環濠の跡も残る中臣道跡の北端にあたり、弥生時代後期の円墳と言われる。達光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(製鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより



京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説 謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れ下る山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルを見つけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980～1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、橘道成を勅使として遣わされました。宗近は宣旨を承りはしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神にすがるとより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の恵みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘剣の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。



宗近は屋敷に戻って、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのままに剣を打つ支度を調べて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表に小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。



花山稲荷神社のお火焚き・ふいご祭り 花山稲荷神社ホームページより 11月第2日曜 (平成28年11月13日)

平安時代の三条小鍛冶宗近の故事に因むもので、火焚串(護摩木)を独特の形に積み上げ、焚き上げる

花山稲荷神社は 古くから金物と神様としても有名で、かつて三条小鍛冶宗近が、当地の埴土で「ふいご」を築き、花山大神の御神助により一世一代の名剣「小狐丸」を鍛えたといわれ、その後伝え聞いた諸国の鍛冶師たちは先を争って当社に参詣したと伝えられている。

本殿横には赤い玉垣に囲まれて、花山稲荷神社以前からあった古墳(円墳)があり、三条小鍛冶宗近の築いた鍛冶場跡と伝承され、稲荷塚と呼ばれてきた。その前に、鉄に携わる人たちの信仰を集めてきた末社達光宮があり、祭神として 芸事、弁才、手先の技術の守護神 市杵島比売大神 鍛冶師の守り神金山比古大神、金山比売大神、天目一箇大神をまつり、この後ろには、稲荷塚の石碑と元禄12年銘のある灯籠の台座が現存。

火焚祭では三条小鍛冶宗近の故事にちなんで古くから火焚串を「ふいご」の形に積んで焚かれる。



毎年11月第2日曜日 火焚串を「ふいご」の形に積んで焚かれる花山神社のふいご祭り

遠い昔、稲作がわが国に伝えられたころ、稲荷の神様が直接「ふいご」を操ったとはまず考えられませんが、「ふいご」で作りだされた様々な鉄製農機具が稲作に不可欠な道具と考えられるようになってから、稲荷の神と「ふいご」の共存共栄が始まり、もともと金物の神の祭りであった火焚祭が2000年もの間、最重要産業であった稲作の守護神として多大な敬意をはらわれてきた稲荷の神様の祭りとして後世に伝わったものと考えられます。

花山稲荷神社ホームページより

2.3. 伏見稲荷の奥宮 稲荷大神降臨伝承が残る折上神社

伏見稲荷・稲荷大神降臨の稲荷山頂とレイラインで結ばれている折上稲荷神社



伏見稲荷の奥の宮とされる折上稲荷神社 左の森が稲荷塚 2016.6.3. 12:35

折上稲荷神社境内の稲荷塚(京都市史跡)は約1,500年前のもので、稲荷神の前身、祖先神(田の神)がお祀りされていた聖地。後の711年(和同4年)稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神と言われている。山に対する信仰と生産の信仰が一体となって生まれたと考えられ、きわめて古い民間信仰の姿をとどめているといわれる。



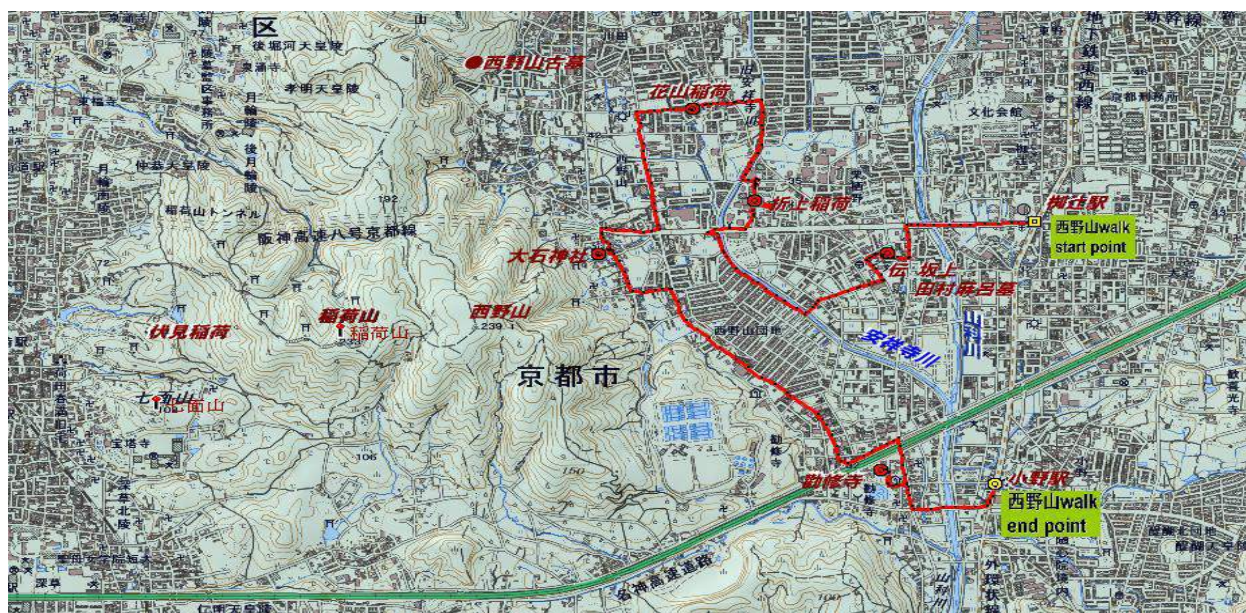
3. 山科 西野山 walk 2016. 6. 3.



山科盆地の西の壁 稲荷山・西野山の山並み



西野山に沿って流れ下る安祥寺川



- 坂上田村麻呂墓を訪ねる
- 西野山麓の鍛冶伝承地 花山稲荷神社
- 稲荷伝承の折上稲荷
- 勧修寺 回遊式庭園の花菖蒲と睡蓮見学

山科 西野山 walk ルート概要

- 京都から山科へ
四条烏丸 == 地下鉄南北線御池駅乗換 == 東西線で山科へ == 山科柳辻駅下車
- 山科 西野山 walk
山科柳辻駅・新十条通・山科川・勧修寺・
坂上田村麻呂公園・折上稲荷神社・旧安祥寺川岸・
花山稲荷神社・大石神社・勧修寺・地下鉄小野駅
- 山科から京都東山 清水寺 アテルイ・モレの碑
地下鉄小野駅前 == 京阪バス 国道1号線 == 京都五条坂
清水道・清水寺・アテルイ・モレの碑



京都市内から地下鉄 東西線に乗って 地下トンネルで東山を越えて山科盆地に入る。地下鉄は北端のJR 山科駅に接続する山科駅から南へ方向を変えて、山科盆地の中央を醍醐・宇治六地蔵へ向かう。西野山 walk の出発点は柳辻駅。山科盆地のほぼ中心部であるが、今まで 駅に降りたことはないが、急速に市街化が進む山科盆地の中心。改札出たところの壁に花山稲荷の鍛冶伝説を記した大きなタイル画を見つけ、駅員さんに色々教えてもらい、簡単なマップももらって地上へ出る。

地上へ出るとちょうどそこは東西に走る新十条大通りと南北の大通り京都外環状線。市街地のど真ん中。



山科 地下鉄柳辻駅前

この新十条通を西へ歩けば、目的の西野山界隈 道の正面向こうに京都との壁 緑の稲荷山が見えている。京都と山科を隔てて南北に延びる東山・稲荷山の山並みは知っていましたが、西野山といってもよくわかりません。

マップで稲荷山の東山麓に大きく広がる西野山団地があるので、この周辺が西野山地区だとわかるのですが、西野山の記載は地図になし。色々当たって 稲荷山の東山腹にある239mのピークが西野山。

稲荷山が233mなので、山科盆地側からは稲荷山の頂上は西野山が重なり見えない。山科で 稲荷山と呼

んでいる山が西野山だと知れる。やっと 京都や山科の人たちにはポピュラーなのでしょうが、西野山の意味が理解できました。 すぐ西を南北に流れ下る山科川を渡って、壁に近づけば 周辺はみんな西野山地区なんだと。



新十条通を西へ 山科盆地の西の壁 稲荷山が正面に見える この山の下一帯が西野山山麓である

新十条通 壁から高速道路が稲荷山をトンネルで京都へ抜ける幹線道路



山科川 榎辻橋からの眺め (上: 北側 大文字山・如意ヶ岳の山並み 下: 醍醐湖の山並み)

北の山並みの中にいつもはだ 大文字山から眺める山科のシンボル京大花山天文台が見えている

3.1. 坂上田村麻呂墓と伝承されてきた坂上田村麻呂公園の将軍塚

新十条通の坂道を少し登って、榎辻橋を渡って、西野道の信号を南にまがると勸修小学校。すぐ横の住宅の間の細道を東へ抜けたところに 住宅地と勸修小学校に隣接して 緑に包まれた小さな公園があり、その中央に田村麻呂の墓と伝わるよく整備された塚がありました。



勸修小学校横の住宅の間を西に抜けると緑に包まれた坂上田村麻呂公園 中央に立派な坂上田村麻呂墓(伝)がありました



緑に包まれて 誰もいない静かな空間が広がり、気持ちの良い空間でした。でも 有名な坂上田村麻呂の墓にしては案内板他簡単で、墓の遺構や出土品等に全く触れていないことや、遺跡としては無防備だなどと勝手に気になったのですが、後でここからさらに西北へ上っていった山際にある西野山古墳が現在 坂上田村麻呂の墓として最有力と知って、この違和感が判りました。でも、西野山の山裾を眺めながら、訪ねるには良い場所でした。また、この塚は坂上田村麻呂の時代よりもっと前のものと聞きました。



3.2 稲荷の大神降臨伝承地 折上神社

坂上田村麻呂公園を出て まっすぐ西へ西野山の山麓へ向かうと山科川に合流する旧安祥寺川。 川の対岸には山沿いの傾斜地に大きな西野山団地が広がっていました。また、安祥寺が流れ下ってくる北側には 新幹線がトンネルで抜ける東山の山並みが見えています。 後で知ったのですが、坂上田村麻呂野の墓とされる西野山古墓は右手山並の山腹？

旧安祥寺川に沿って 川沿いの遊歩道を北へ 先程の新十条通りの北にある折上稲荷神社へ向かう



旧安祥寺川 西野山団地 西金ヶ崎橋周辺 旧安祥寺川が流れ下る奥には東山の 山並みが見える



折上神社の旗が立ち並び 新十条通 旧安祥寺川 東岸地区

新十条通 旧安祥寺川にかかる射場
の上橋を東へ川を渡ると道には折上
神社の旗がはためき、北側に折上神社
の入口が見えてくる。この一角はか
つて 世話になった福田金属箔の工
場群地区。ここだったのかと初めて
知る。工場間の道を北へ抜けると折
上神社でした。



稲荷の大神の降臨伝承地 伏見稲荷大社の奥の宮折上神社

入口左 緑の樹木に覆われた小さな土盛りが、稲荷の大神が降臨した稲荷塚

入口の所に折上神社の案内板があり、この神社が伏見稲荷大社の奥の宮であると知る。

稲荷塚（京都市史跡）は約1,500年前のもので、稲荷神の前身、祖先神（田の神）がお祀りされていた聖地。後の711年（和同4年）稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神と言われている。山に対する信仰と生産の信仰が一体となって生まれたと考えられ、きわめて古い民間信仰の姿をとどめているといわれる。

工場群の中にあるので、すぐ南西にある稲荷山・西野山を眺めることはできませんが、

「伏見稲荷・稲荷山三ヶ峰・折上稲荷 3つの稲荷信仰の聖地が直線上に並んで、レイラインが構成されている」と聞く。

711年（和同4年）稲荷大神が降臨した際、稲荷山の三ヶ峰の次に降りたのが折上稲荷神社境内の稲荷塚と伝承され、伏見稲荷と共に最古の稲荷神と言われている。3つの稲荷信仰の聖地が直線上に並んでいることも、折上稲荷神社が信仰を集める所以でもあるという。

伏見稲荷大社から 稲荷山山上まで、社がいくつもあり、参詣道がつづいていて、何度かたどったことがあります。山科側へ下ったことはなし。一度 稲荷山を山科側へ下りたいと思い、山科側の登り口の下見も今回の目的の一つ。初めて、山科側まで 参詣道が続いていることを知りました。歩いてみないと判らぬ今回の収穫の一つです。



3.3. 西野山山麓 山科の鍛冶伝承地 名刀「子狐丸」伝説 花山稲荷神社



福田金属箔工場群の間を北に抜け、再度旧安祥寺川岸に出て 花園稲荷神社へ向かう。旧安祥寺川岸からは 北西の山の頂上に京大花山天文台が再度見える。安祥寺川沿いを少し北へ行った西 川向うに花山稲荷の鳥居が見え、小さな歩行橋を渡って鳥居に向かう。



安祥寺川沿いを少し北へ行った西 川向うに花山稲荷の鳥居が見える。



花山稲荷神社の参道入口 鳥居から奥の山腹へ 緑に覆われた静かな坂道が続く



鳥居から緑のトンネルの中を長い坂道が、まっすぐ西野山の傾斜地を登ってゆく。

長い緑のトンネルが続き、視界が開けないので、周辺がどうなっているのか、全くわからない。この奥に花山稲荷神社の社殿があり、その隣本殿横には赤い玉垣に囲まれて、花山稲荷神社以前からあった古墳(円墳)があり、三条小鍛冶宗近の築いた鍛冶場跡と伝承され、稲荷塚と呼ばれてきた。

緑の心地よい参道を登ってゆくと、赤い鳥居の向こうに拝殿が見えてきた。

この拝殿の右手 鳥居や小さな社などが建ち並び奥に 緑のこんもりした丘があり、その頂上部が赤い垣で囲まれているのが、ちらちら見える。ここが稲荷塚。

「稲荷神社が建てられる前からある古い古墳で、三条小鍛冶宗近の築いた鍛冶場跡 稲荷の大神の化身 子狐を相槌に名刀子狐丸を鍛ったと伝承される場所」と伝えられる場所で、赤い垣の中に「狐塚」の碑があると教えてもらった。





緑に包まれた静かな森の中に、稲荷神社の本殿とは別に たくさんの神々をまつり、鍛冶伝承ばかりでなく、大石内蔵助伝承
そして、その起源をたどると境内にある古墳 そして 鍛冶伝承も稲荷山信仰と結びついたものと聞く。
境内を歩いていて こんがらがって・・・・・・。

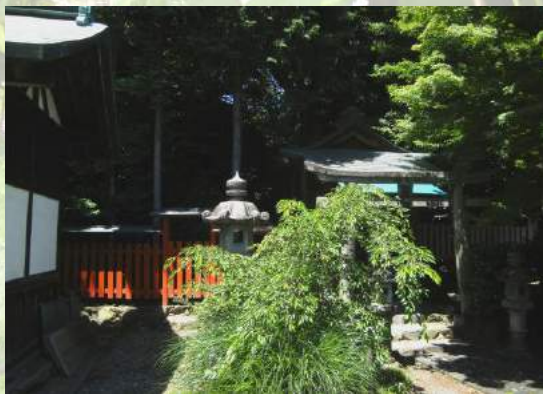
境内の落ち葉掃除をしている
神社のおばさんに話しかけて、
古墳のことやまた この地が
中臣遺跡の北端で環濠が残っ
ていることなど色々教えてもらって、もう一度赤い玉垣で囲
われた古墳の周りを一周する。

本当に鳥居だらけ 神様だ
らけで 緑に包まれたこの花
山稲荷神社の古さが自然と伝
わってくる。





花山稲荷神社境内 古墳の周りにある塚・摂社



本殿すぐ横にある達光宮



玉垣の中にある稲荷塚の石碑

花山稲荷神社の本殿 右奥に古墳があり、その頂上部 赤い玉垣に囲まれて、稲荷塚の碑がある。ここが刀匠三条小鍛冶宗近の鍛冶場伝承地。また、達光宮の社殿全体が円墳の上に建てられているといい、祭神は市杵島比売大神、金山比古大神、金山比売大神、天目一箇大神。また境内は特に広くはありませんが、神社全体が緑に包まれた丘の上。達光宮をはじめ、さまざまな摂社・塚が所狭しと頂上部をバックに立ち並び、厳かな雰囲気が漂っている。いかにも 古い由緒ある神社であるが、案内板の類は全くなし。

柳辻駅の鍛冶伝承タイルと周辺案内地図を見なかったら、見過ごしていたところでした。



達光宮の正面



薬丸大神



熊丸神社



御嶽大神



花山稲荷神社 刀匠三条小鍛冶宗近の鍛冶場伝承地 赤い玉垣で囲われた稲荷塚
この玉垣の中に稲荷塚の碑がある。 禁足地と思ったのですが、中に入れてもらえると後で知りました



稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説が残る山科花山稲荷「稲荷塚」

謡曲「小鍛冶」 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神



京都市地下鉄東西線柳辻駅地下通路 山科花山稲荷神社 名刀「小狐丸」の伝説
能「小鍛冶」の伝説として ほかの地にも伝承されている

三条小鍛冶が作ったと伝承される鍛冶場伝承地 達光宮が祭られている「稲荷塚」

本殿 右側の赤い玉垣の中にあり、「稲荷塚」の石碑と元禄十二年(1699年)の銘のある石灯籠の基部が残る。また、この辺りは環濠の跡も残る中臣道跡の北端にあたり、弥生時代後期の円墳と言われる。達光宮の御祭神などと考え合わせると、稲荷大神を勧請する前から鍛冶(製鉄)の神として祭られていたようにも思われます 花山稲荷神社ホームページより



花山稲荷神社 刀匠三条小鍛冶宗近の鍛冶場伝承地 赤い玉垣で囲われた稲荷塚
この玉垣の中に稲荷塚の碑がある。 禁足地と思ったのですが、中に入れてもらえたと後で知りました

京都山科に残る稲荷信仰と結びついた刀鍛冶の伝説 謡曲「小鍛冶」のもととなった山科花山稲荷の名刀「小狐丸」の伝承 名刀工三条小鍛冶宗近の相槌は稲荷大明神

山科盆地の北部 大文字山から比叡山へと連なる山並みの山中には鉄鉱石があり、そこから山科盆地を流れる山科川はかつて砂鉄の産地だったといい、山麓には如意ヶ岳南製鉄遺跡群と呼ばれる古代たたら跡が点在する。また、この山科盆地は天智天皇の御陵に象徴される古代王城の地でもあった。以前 この山科盆地北部のたたら跡を訪ねた時に、この地にも 古い鍛冶伝承が残っていると思いながら、よう見つけなかった。

今回 西野山の坂上田村麻呂の墓を訪れる機会に西野山周辺を歩こうと地下鉄 柳辻駅へ降り立ち、駅の地下通路の壁のタイルに上記した山科の鍛冶伝説を伝えるタイルをみつけ、一緒に訪ねてきました。

山科花山稲荷に伝わる名刀「小狐丸」の伝承

ある夜、一条天皇(980~1011年)が不思議な夢を見られて、当時名工として知られた三条の小鍛冶宗近に御剣を打つことを命ずる為に、橘道成を勅使として遣わされました。宗近は宣言を承りしたものの、一人では御剣を打つことが出来ません。相槌に優れた者が居なくて困った宗近は、神に訴えるより仕方ないと思い、氏神である稲荷明神に祈願のために出かけます。すると一人の童子が現れて、不思議にもその童子は既に勅命を知っており、「君の思みによって御剣は、必ず成就するであろう」と安心させます。そして、和漢の銘刺の威徳や故事を述べ、特に日本武尊の草薙剣の物語を詳しく語って聞かせ、「通力の身を変じて力を添えよう」と言って、稲荷山に消えていきます。

宗近は厚敷に寝て、しめ縄を張った壇をしつらえ、童子の教えのまに剣を打つ支度を揃えて、祝詞を唱えて待ち構えていると、稲荷明神からの使いの狐が現れて、相槌となって御剣を打つのを手伝ってくれたのでした。やがて御剣は完成し、表には小鍛冶宗近、裏には小狐と銘を入れ、勅使に捧げると、狐は再び稲荷山に帰っていく。



3.4. (西野山)沿いの大石道に出て そこから南へ 大石神社・勸修寺へ



高速道路京都線 山科入口

花山稲荷神社から西の稲荷山(西野山)沿いの大石道に出て そこから南へ 大石神社・勸修寺に向かって歩く。

少し、歩いたところで、また新十条通に出て、西の山際に高速道路山科入口が見える。大石神社はこの高速道路山科入口左すぐ横である。 高速道路はこの山科入口からそのまま稲荷山をトンネルで抜けて、今熊野から鴨川を渡るとすぐ京都駅。京都駅の最短コース。

山科から京都市街へ出るには北の旧東海道を蹴上へ山越えして三条大橋の道 また東山を五条通へ超える国道1号線とばかり思っていたが、この新十条通 山科入口から高速道路で稲荷山トンネルを抜けて、京都駅に出る快速バスがあることを初めて知りました。 地下鉄が京都市街地と山科を結び、さらに山科盆地を南北に南端の醍醐・六地蔵までむすび、見違えるような交通網の整備が山科の急速な市街化発展を支えていると知りました。

山科入り口から、案内板にそって、少し山腹へ入ったところが大石神社。 一度行ったことがあるのですが、記憶と随分違っているのに驚く。学生時代だから⑩数年前。当然なのでしょうが……

鳥居横の広場からは、山科の街がよく見え、ここが随分標高が高い位置にすることが判る。 ここからも山科の象徴 花山天文台が遠望される。



ここから 西野山の下を南の醍醐へつなぎ、バスも走る大石道に出て、勸修寺まで、約30分周りを眺めながら勸修寺へ。それにしても暑いウォークでした。



大石蔵之助ゆかりの大石神社

3.5. 咲き始めた花菖蒲・睡蓮が美しかった西野山の南端 勸修寺



何とはなしに頭が覚えていた勸修寺。 西野山(稲荷山)に沿って南に歩けば行き着くので、西野山walkのend pointに。 ぶらぶらと勸修寺へ なにがあるのだろうか? との興味半分 でした。

「春の桜・秋の紅葉 氷室池を中心とした回遊式庭園で有名 今は睡蓮と花菖蒲が美しい」と入口で教えてもらって、 短時間でしたが、お庭を見学して帰りました。

花菖蒲 そして咲き始めた睡蓮が見事なお庭 ラッキーでした



花菖蒲と睡蓮が咲き始めた勸修寺 回遊式庭園 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺 庭園で 2016.6.3.



勸修寺を醍醐道に出て 西へ山科川を渡ると山科を南北に貫く京都外環状線との十字路。その地下に地下鉄小野駅があり、山科盆地の南西部 西野山 walk も終わりに。 まだ、時間も十分 久しぶりに坂上田村麻呂総研の清水寺のアテルイ・モレの碑に出会いに行く。

「蝦夷の雄アテルイと坂上田村麻呂」の伝説 特にアテルイに惹かれて たまたま TV でみた山科にある坂上田村麻呂の墓の映像を見て、山科西野山を歩こうと出かけてきたのですが、近場で知っているようで よく知らなかった山科盆地。歩いている間に次々と知らなかったことを教えてもらって、やっぱり 出かけてみるもんだと。気にかかっていた山科の鍛冶伝承地 そして 稲荷信仰のレイラインにも出会えて 本当にラッキー。じっくり、山科側から 稲荷山を眺めるのも初めて。 次は稲荷信仰レイライン walk も頭に。京都市街へは地下鉄で行けるのですが、周りの景色がみられるバスで、国道1号線 新幹線に沿いの国道1号線を通して東山越をして 京都の街に入ろう。



勧修寺横 醍醐道 山科川にかかる橋を渡って 小野駅前へ

4. 坂上田村麻呂創建の京都 清水寺へ 山科から京都市街地へ バスで東山越

蝦夷の雄 アテルイ・モレの顕彰碑に出会いに行く



小野駅の前からバスに乗って、清水寺のアテルイ・モレの碑に出会いに行く。

ここから北へ行って、国道1号線にでて、国道1号線を西へ行く東山越が一番近い。 周りの景色がみられるこのルートを選択。20分ほどで 清水寺道である。バスは東山越から、五条坂へまっすぐ下らず、旧渋谷街道に出て、西大路の馬町に下り、西大路通りを北へ向かう。



国道1号線 東山越 旧道渋谷街道への分岐



清水寺界限と清水寺舞台からの眺望

清水寺への参道は日曜日と修学旅行シーズンと重なって、どこもかしこも観光客でいっぱい。

いつもの風景ながら、門前のレンタル着物を着た外国人の多さにびっくり。 京都の街には そんな外国人観光客があらわれている。人波をかき分けて 清水の舞台から階段を下りて 舞台の下へ回り込む道へ。 やっと人波から解放される。

この舞台の下を回り込んだ崖の端にアテルイ・モレの顕彰碑がある。

清水寺の創建が坂上田村麻呂であることを知っているても 清水寺にアテルイ・モレの顕彰碑があることを知る人は少ない。



清水の舞台の下に回り込んだところにある蝦夷の雄 アテルイとモレの顕彰碑



舞台の上の喧騒とはかけ離れた静けさ 緑につつまれた舞台の下 アテルイ・モレの顕彰碑の広場
この碑に気が付いて 足を止める人は少ない



坂上田村麻呂ゆかりの清水寺にあるアテルイ・モレの顕彰碑



「八世紀の末頃まで、東北・北上川流域を日高見国(ひたかみくに)と云い、大和政府の勢力圏外にあり独自の生活と文化を形成していた。政府は服属しない東北の民を蝦夷(えみし)と呼び蔑視し、その経略のため数次にわたり巨万の征討軍を動員した。胆沢(いざわ・岩手県水沢市地方)の首領、大墓公阿弋流為(たのものきみあてるい)は近隣の部族と連合し、この侵略を頑強に阻止した。なかでも七八九年の栗伏(すぶせ)の戦いでは、勇猛果敢に奮闘し征東軍に多大の損害を与えた。八〇一年、坂上田村麻呂は四万の将兵を率いて戦地に赴き、帰順策により胆沢に進出し胆沢城を築いた。阿弋流為は十数年に及ぶ激戦に疲弊した郷民を憂慮し、同胞五百余名を従えて田村麻呂の軍門に下った。田村麻呂將軍は阿弋流為と副將磐具公母礼(いわぐのきみもれ)を伴い京都に帰還し、蝦夷の両雄の武勇と器量を惜しみ、東北経営に登用すべく政府に助命嘆願した。しかし公家達の反対により阿弋流為、母禮は八〇二年八月一三日河内国で処刑された。

平安建都千二百年に当たり、田村麻呂の悲願空しく異郷の地で散った阿弋流為、母礼の顕彰碑を清水寺の格別の厚意により田村麻呂開基の同寺境内に建立す。 両雄以って冥さるべし。」

清水寺 アテルイ・モシの碑の碑文



山科の西野山そして 久しぶりにアテルイ・モシの顕彰碑に出会えて気分爽快。うれしい一日でした。

坂上田村麻呂と敵将アテルイの伝説の信ぴょう性はともかく、東北の人たちの思い、そして「坂上田村麻呂・アテルイは 二人して次の時代を切り開いた英雄に違いない。 中央政権はこれ以後 秋田城・志波城を築き、さらに北進してゆくが、武力での制圧を捨て、同化政策を採っていく。 この政策転換にも大きな影響を与えたに違いない。

現代社会も彼らに学ぶことが多い」と結ばれた赤坂憲雄氏の言葉が、強く心に響いてくる。



今の時代に通じる 征夷大將軍「坂上田村麻呂」& 蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論 !!

NHK BS 英雄たちの選択「衝突！その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」

2016.5.26. 出演：磯田道史、赤坂憲雄、里中満智子、宮崎哲弥、鈴木拓也

時は平安遷都を行った桓武天皇の時代。遷都と並ぶ国家プロジェクトが東北の蝦夷の制圧だった。大きな期待を背負い戦った坂上田村麻呂は、蝦夷のリーダー・アテルイを降伏させることに成功する。

しかし田村麻呂はアテルイから助命を要請される。

朝廷の大反発が予想されるなか命を救う行動にできるか、それとも処刑やむなしと突き放すのか？

国家の方針で蝦夷と衝突し、そして蝦夷の実像を知っていった田村麻呂の苦悩に迫る。

インターネット NHK オンデマンド PR コピーより

アテルイは東北では英雄であるが、他では「鬼」・「悪路王」・「逆賊のリーダー」であり、坂上田村麻呂は逆賊を制圧した英雄である。

敵のリーダーアテルイとモレの度量と人柄を評価していた田村麻呂は、まだ帰順せぬ蝦夷たちへの説得工作も視野にあったのだろうと推察されるが、助命を嘆願するも、彼らの謀反を恐れる貴族たちの反対もあり、2人は処刑された。

この場面で、坂上田村麻呂の選択を支持するのか、それとも反対するのか？

4人のコメンテーターがどちらの選択をするのか？ コメンテーターの意見・討論で番組が進む。

「多分 東京や都市圏で仕事をする2人は処刑を選択し、地方で仕事する2人は助命を選択するだろう」と家内に話をしていたのですが、ドンピシャ。興味深々でつついテレビを見ていました。

当事者意識を捨て、一般常識的には 平和な暮らしが続いている蝦夷の人たちにとっては、突如 仰天の未知なる新しい社会秩序への選択を迫られたわけである。怒るのもあたりまえであろう。

でも勝手な都合からいうと 喉から手が出るほど新秩序に組み込みたい。「小を殺して大をとる」と。

この構図は沖縄問題・東京と地方・アフガニスタン&中東紛争 そして もっと直近では東京都知事問題にあまりにも極似していることに驚く。

右/左・2/1選択は当事者意識のぶつかり合い。必ずしも真ならず。

相手の暮らしを考えず、自分の暮らしを社会の常識だけを判断根拠とする今の社会は本当に正しいのだろうか。

最後に東北学を提唱推進されてきた赤坂憲雄氏は「坂上田村麻呂・アテルイは 二人して次の時代を切り開いた英雄に違いない。これ以後 中央政権は秋田城・志波城をつくり、さらに北進してゆくが、武力での制圧を捨て、同化政策を採っていったことにも、大きな影響を与えたに違いない。現代社会も彼らに学ぶことがある」と結ばれたのが、強く心に残る。

久しぶりに聞く「アテルイ・坂上田村麻呂」。そして坂上田村麻呂の墓が山科西野山古墓と知って、晴天の6月3日 清水寺のアテルイ・モレの碑 そして山科西野山古墓に出会いたくなって、山科から京都へ出かけました。

＜ 参考資料 ＞

◆ NHK BS 英雄たちの選択 「衝突！その時 男は何を見た 征夷大將軍・坂上田村麻呂」 2016.5.26.

出演：磯田道史、赤坂憲雄、里中満智子、宮崎哲弥、鈴木拓也

◆ 【和鉄の道・Iron Road by Mutsu Nakanishi】

蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂

■ 1. 「和鉄の道 Iron Road たたら遺跡探訪【IV】」 6.蝦夷の鉄 東北 和鉄の道

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/4iron06.pdf>

■ 2. 「蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/1603tpb01aterui.pdf>

■ 3. From Kobe 2008 年2月 日本人の祖先の一部 節分の「鬼」

<http://www.infokkna.com/ironroad/2008htm/2008mutsu/fkobe0802.pdf>

■ 4. 「蝦夷の雄「阿弭流為・アテルイ」と征夷大將軍 坂上田村麻呂」

<http://www.infokkna.com/ironroad/dock/iron/6iron03.pdf>

山科の製鉄関連遺跡関連

■ 1. 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる

<http://www.infokkna.com/ironroad/2013htm/2013iron/13iron12.pdf>

